



エントツに
しては煙が出ない
は何だろうかと素人
探偵木下貴一は幼い時から
思ったものである
それはこのお話の主人公で
ある団地の塔である



ちようど
いい
ここへ
入りま
せんか



ああ
君たち
ですか

やあ木下
さんじゃ
ありませんか



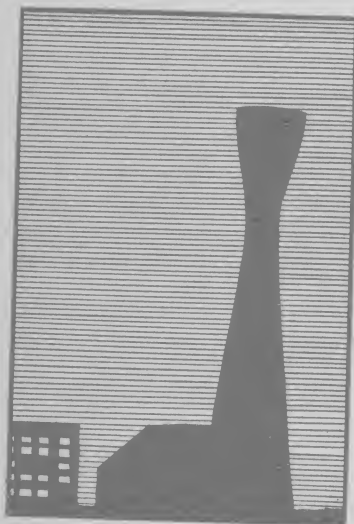
いずれの
場合も
団地の配水塔
から落下して
やられてます
ね



今日に入って
から三人も
殺されて
いました
ね
不思議
です



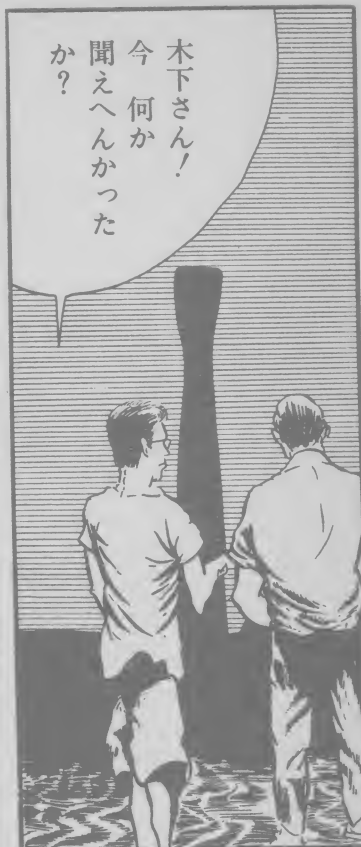






宇原君……
なぜ見張られ
てはいないかと
思うの
でしょう
ね

そんなこと
より塔の下
に人が集って
るよ



木下さん！
今何か
聞えへんかった
か？



この前が
暗号研究
家の松村竹夫氏
魔術師玉村三郎氏
蠟人形師梅田花月氏
いずれも知る者ぞ
知る人物達や

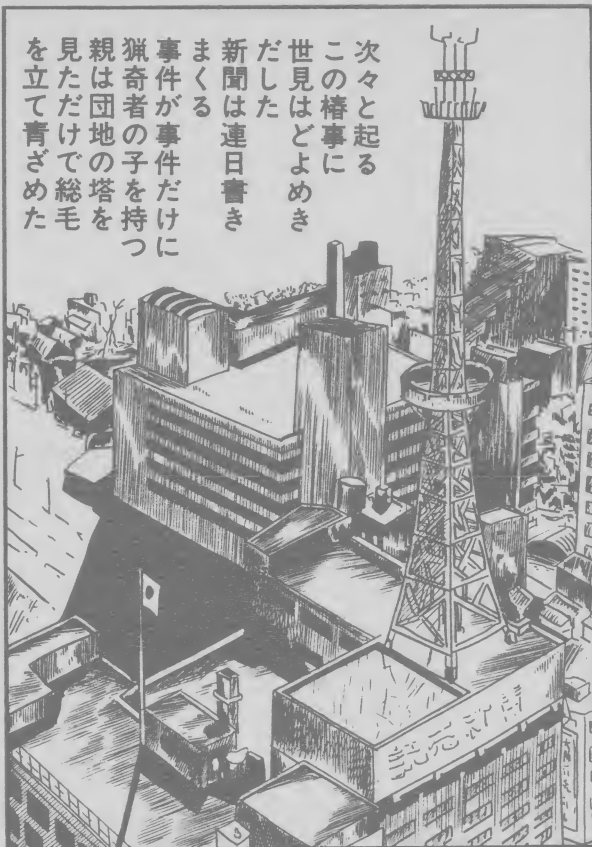


この男は
パノラマ島に
とりつかれた
夢想家
人見広介氏だ



そしてあなたも
守口の猟奇家で
はありませんか
そして私が素人
探偵そのへん
に何かあり
そう

次々と起る
この椿事に
世見はどよめき
だした
新聞は連日書き
まくる
事件が事件だけに
猟奇者の子を持つ
親は団地の塔を
見ただけで総毛
を立て青ざめた



素人探偵木下貴一は
この事件こそ
自分が待ち望んでいた
ものであると信じ
そのナゾを解くため
今日も市中を
彷徨した



ぼく一人で
行くよ…
こうあついと
何も考えら
れんよ

どうしよう
かな……



フー
あついね
このハガキな
らぼくとこ
へも来たよ



世見は相手にしてくれないよ
取残されてしま
ってる
そのへんじゃ
ないかな
.....



犯人の目的
は何やろ
かな？

時代だろうね
赤い部屋だ
んて乱歩の
世界だ 時代が
ずれすぎて



見世物小屋や
八幡の藪知らずの
代りに都会の
地上地下が迷路
になって
しまってる



しかし四人も殺さ
れているのは
ほっとけはせん
ね そういうの
に ひたるのも
ええけれど

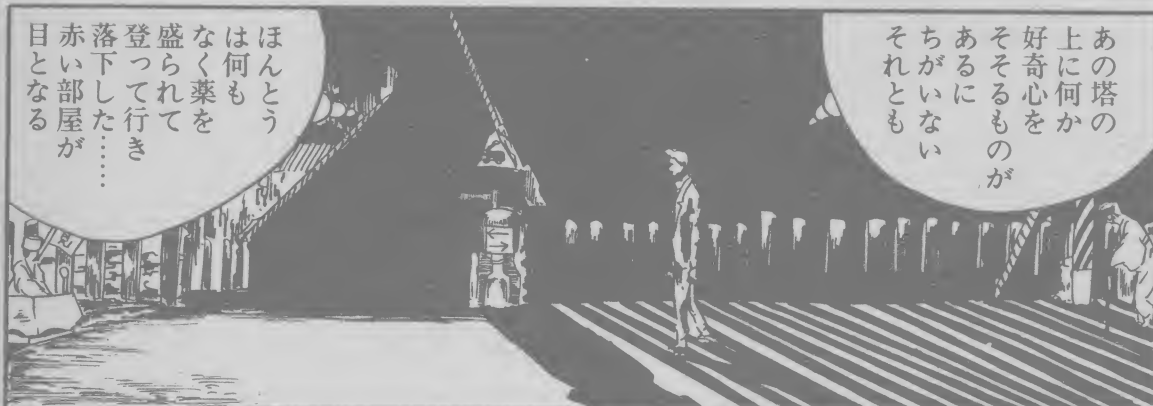
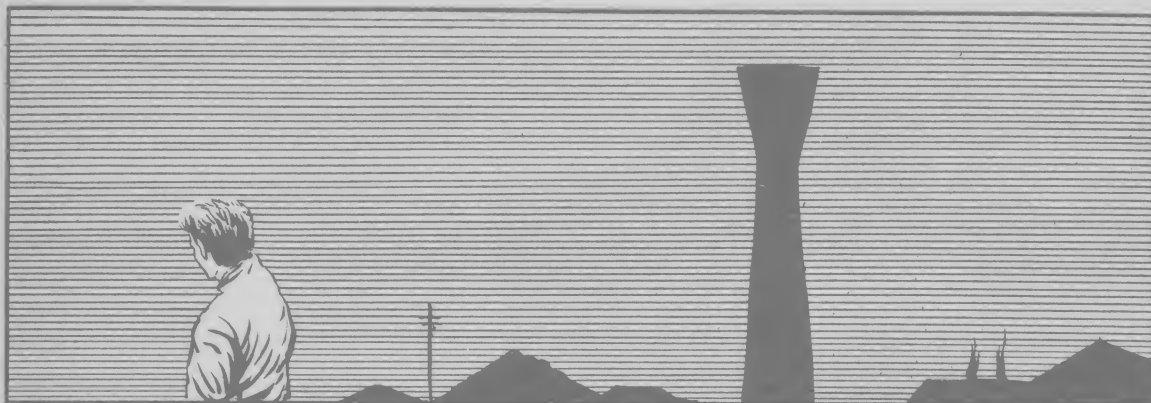
猟奇者が
猟奇で死ねば
本望だと云うが
殺人は殺人だ
からね.....

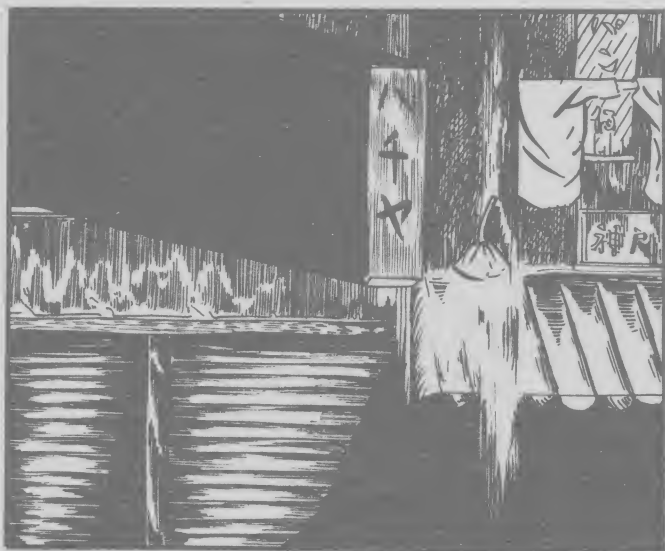


その夜木下はハガキの
赤い部屋へ行くことに
した



ぼくら
のようにそう云う
時代の風情を實際
味わったことのない者
は別としてあの時代を
忘れられない猟奇者達
がさわぎ出すのも
無理じゃない.....







愚痴やないけど
もう少し世の中
がゆっくりと
してたら
自分も
りっぱな
一社会人と
して生活
できるのに



会社へ行ったこと
もあるけど
秋なんか青い空
見たら休んで
山に行ったりして
家で安眠をむさ
ぶる快感に
くらべ
ると



なんで面白く
もない仕事な
んかできる
ねん
社長になれ
るでも
なし



試験は白紙やし
蓄膿でおまけに
赤面症ときてる
行く道猟奇に走る
しか方法はない
下行ってお茶
入れてきてく
れるか?

それは
変態や
おかしいで
宇原さん 病院
行くか?

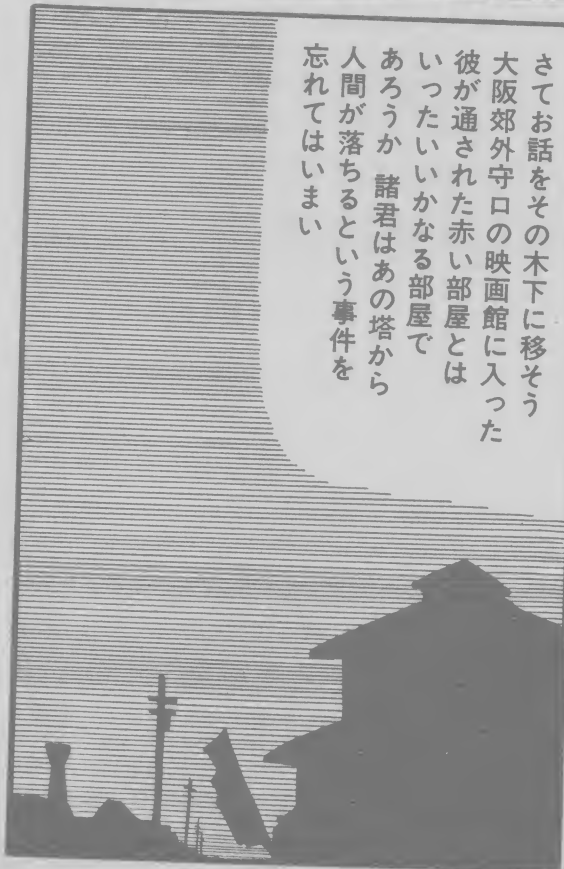


白いペンキ塗ったら
赤面症直ったように
見えるしかし
根本をやら直さん
ことには一生自分
の顔は赤こう
なったり青うな
ったりしよるわ

そんな変質者
のペンキ屋の
話より素人探偵の
木下さん映画館
で見かけたで



さてお話をその木下に移そう
大阪郊外守口の映画館に入った
彼が通された赤い部屋とは
いったいいかなる部屋で
あろうか 諸君はあの塔から
人間が落ちるといふ事件を
忘れてはいまい





今日ここにお集り
下さった方々は
いずれも大阪近郊
に住まれる
怪奇愛好家
ならびに
高級変質者
という
いずれも
一流の猟奇者
のみなさん達
です



お話の
前に今まで
四人の猟奇者が
死んでおりま
すその理由を
お聞きしたい



君は猟奇の徒では
ないな！
そういう説明を
求めるなど
実に正常人
だ！



とんだお茶番だ
だいたいからして
赤い部屋という
もの自体素人
のやる
大茶
番さ





待ちなさい
赤い部屋の
秘密を知った
からは帰す
訳には
いかん

すると何か
知られては
まずいこと
でも
あるの
ですか？



さて、
どの
配水塔へ
行ったか……



あのう……さつき
配水塔へ行く
云うてはった
人あつて
出て行っ
たわ

それだ！
あなた達も
家へ帰った方が
よろしいですよ

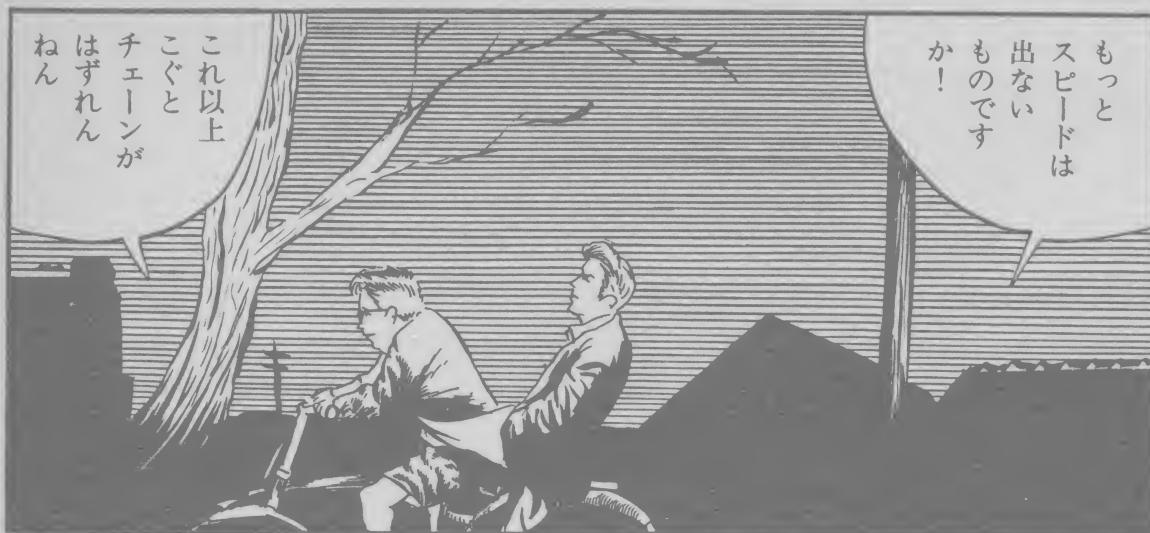


誰かと
合いません
でしたか？

それぞれ
塔の方へ
行きました
自分は心配で
心配で



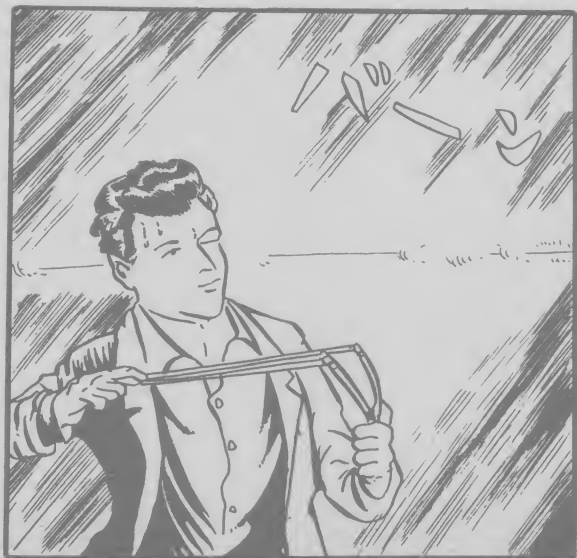
ああ
宇原君
じゃ
ない
か！

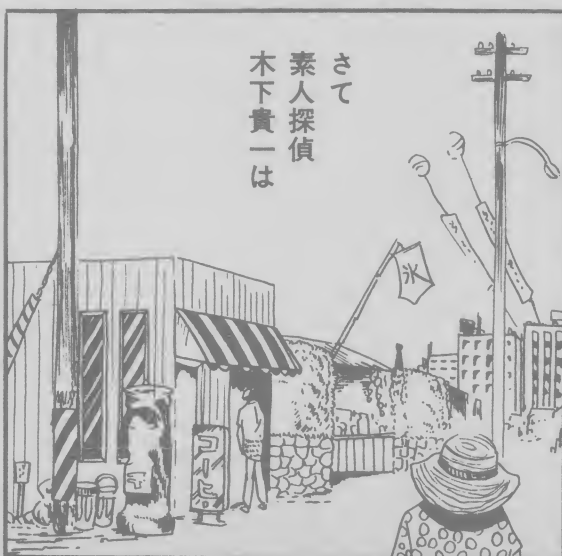
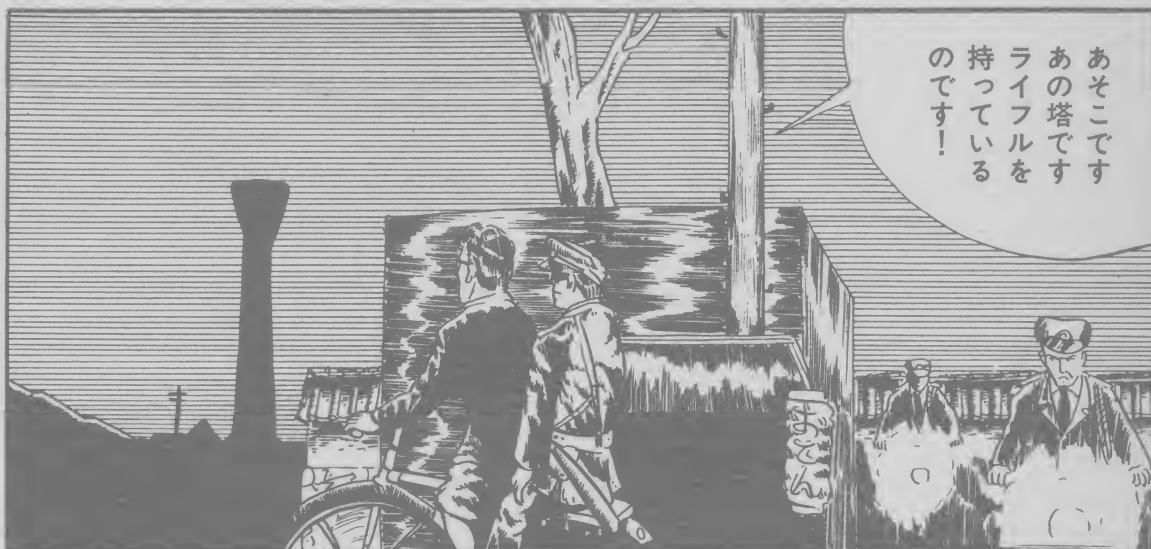
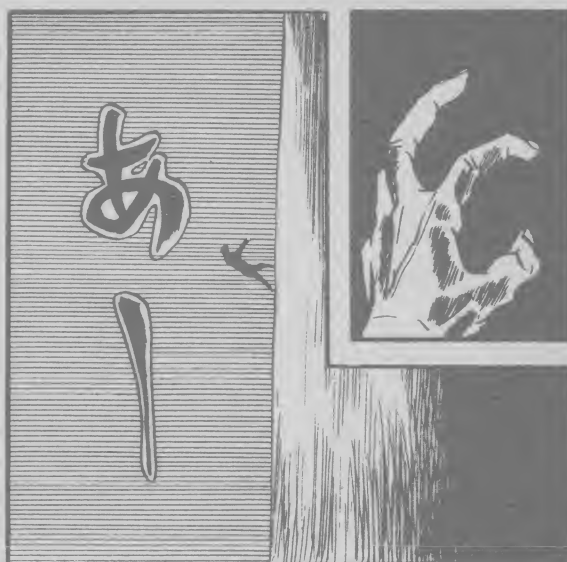




バグーン







さて読者諸君にこれ以上ドタバタ劇を御覧にいれるのはこのへんにしてその結果を翌日の新聞を通してお話し致しましょう
配水塔にて狙撃落下した男は即死
ライフル魔は木下の銭形平次仕込みのパチンコ玉でえらい目に合い
難なく逮捕 加害者ならびに被害者との関係はまったくなくいわゆる塔狂いとライフル魔との合せである
と新聞ニュースでは伝え





アジの
塩ヤキ
めしは小
さい
にして下



それが一番や
ええ夢
見いや……

もう……
家へ帰って
寝る



探偵業は
もう……
やめるん
?

フー
暑い暑い
めしなんかより
宇原君のように
ざるそばにして
たらよかった

いつも見ているごく日常的なことだ
けど団地の塔の白くニョッキリした
のはどうも気持ちいいのどろどろはなり
自分の友人が云うにはあそこの上に
部屋があり小さな窓から二時間も
三時間もじっとのぞきこんでいる
と云う。自分はこの友人は探偵者
だと思ってる。
作中出てくるパノラマ島とはほんとう
の風景の中に紙で描いた紙なんかを
入れたリミニエヤを入れたりして
いわゆる人外境の世里を島にうばい
にこしらえたものである。
八幡の被知らずというのは竹やぶなん
かを敷いて中をうろつくし、そう
生首やバラ死体なんかがあって
おまけにその中は迷路になっていて
昔のことだから客も少なく一人
そこを歩いて行く。出口へ出るの
れはたいしたもので五十円の入場
料ならまあ千円ぐらいの賞金とく
てもらえた見世師小屋のこと。
赤い部屋は乱歩の小説に出てくる
探偵クリガのこくである。

後書

完